長万部の教育コーナー

今、キャンパスでは

東京理科大学

JSTの「さくらサイエンスプラン」に採択!!

本学基礎工学部のプログラムが、独立行政法人科学技術振興機構（JST）の日本・アジア青少年サイエンス交流事業「さくらサイエンスプラン」に採択されました。

この事業は、産学官の緊密な連携により、優秀なアジアの青少年が日本を短期に訪問し、未来を担うアジアと日本の青少年が科学技術の分野で交流を深めることを目指しています。そしてアジアの青少年の日本の最先端の科学技術への関心を高め、もって日本の大学・研究機関や企業が必要とする海外からの優秀な人材の育成に貢献することを目的としています。

採択プログラムでは、11月下旬ごろにタイ王国のChiang Mai Rajabbhat大学の学生8名が長万部キャンパスを訪れ、ホタテ関連の実験体験や町内の水産加工関連施設の見学をする予定です。この様子についても、広報おしゃまんべでご紹介させていただきます。

避難訓練を終えて

いずみ保育園

毎月行っている避難訓練、今回は津波を想定して坊主山まで全員で避難しました。「お散歩よりも早歩きだよ。泣かないで頑張ろうね。」と約束してスタートです。「津波が来るよ…」とつぶやきながら一生懸命歩く3歳のお友だち、年下の子を上手に引張ってくれる年長さん、カートで避難した2歳のお友だち。春の訓練と同タイムで全員到着し一安心。山を駈け上がったり無邪気にバッタ取りを楽しむ姿に、無事に育ってくれるよう心から願いました。

避難訓練を終えて、ハイチーズ！

写真で見る学校の様子

長万部中学校

2年生宿泊研修　札幌市内の調理製菓専門学校にて（8/20）

1年生見学旅行　函館市五稜郭にて（8/22）

第33回学校祭　全校合唱（9/21）

長万部小学校

優しい気持ちになれたよ～生花教室（9/1）

自分の記録に挑戦したよ～体力記録会（9/8）

中学生と交流したよ～歌声集会（9/24）

クールオシャマンベ

長万部高等学校校長　中坪俊博

県民溺愛のグルメや県民性を紹介する民放番組が好きで、毎週見ています。生まれながら当然のこととして身についている「こと」あるいは「もの」が、「日本の中で唯一あなたのところだけですよ」と言われると、「そんなばかな、日本中どこでも同じと思っていたのに!?」と県民の驚くリアクションが、一つの楽しみになっています。「ところ変われば品変わる」で、当たり前と思っていることが他では違うということに気付かされます。

最近、よく「クールジャパン」というのを聞きます。「かっこいい日本」「いかしてる日本」とでも言えばよいのでしょうか。漫画、アニメ、ゲームなどのポップカルチャーのみならず、優秀な日本製品や匠の技、ユネスコ無形文化遺産に選ばれた和食など、日本のありとあらゆるものが世界中から高く評価されています。

その賛辞は、日本人の道徳心に対しても向けられます。未曾有の大災害であったにもかかわらず、東日本大震災での沈着冷静な日本人の姿は、世界から驚きをもって讃えられました。サッカーのワールドカップでは、スタンドのゴミを拾って帰るサポーターも賞賛されました。外国のホテルでは、世界中で一番よい客は、礼儀正しい日本人だと言われます。

本校のALTのオニール先生に、「日本の教育の素晴らしいと思うところは何ですか?」と聞いてみました。給食や教室掃除はジャマイカでは珍しいと言っていました。月1回の全校集会も素晴らしいシステムだと言っていました。

そういえば、ある番組で、教室を掃除する日本の子供たちを取材する中近東の国が紹介されたことがあります。取材したアラブ系の記者は、「奇跡の光景」「素晴らしい教育」と絶賛していました。日本の教室掃除は、いたちまちその国に広まっていったそうです。挨拶をする、係の仕事をする、給食をいただく、掃除をする。私たちにとって当たり前のことは、多くの諸外国から絶賛される教育なのです。教育に携わる私たちは、日本の教育にもっと自信と誇りを持っていいと考えています。

ひるがえって我が長万部町は、町教育連携会議が昨年度から開催されています。小・中・高・町教育委員会が月1回集まって、相互に連携を図っています。各種検定試験の小中高合同開催や、中高の合同講演会（今年度は合同芸術鑑賞会）の開催、各教科や校務分掌の連携などに取り組んでいます。他の町から見ると、まさに珍しい取り組みで、今後も新しい研究テーマのもと、地域の子供たちのためにますます発展する可能性を秘めていると考えています。また、東京理科大学との連携も密で、小・中・高がそれぞれ授業や各種行事・イベントを通して交流を深めています。これもまた珍しい取り組みです。本道の教育界から「クールオシャマンベ」と言われる日がいつの日か来ることを、密かに願っている今日この頃です。